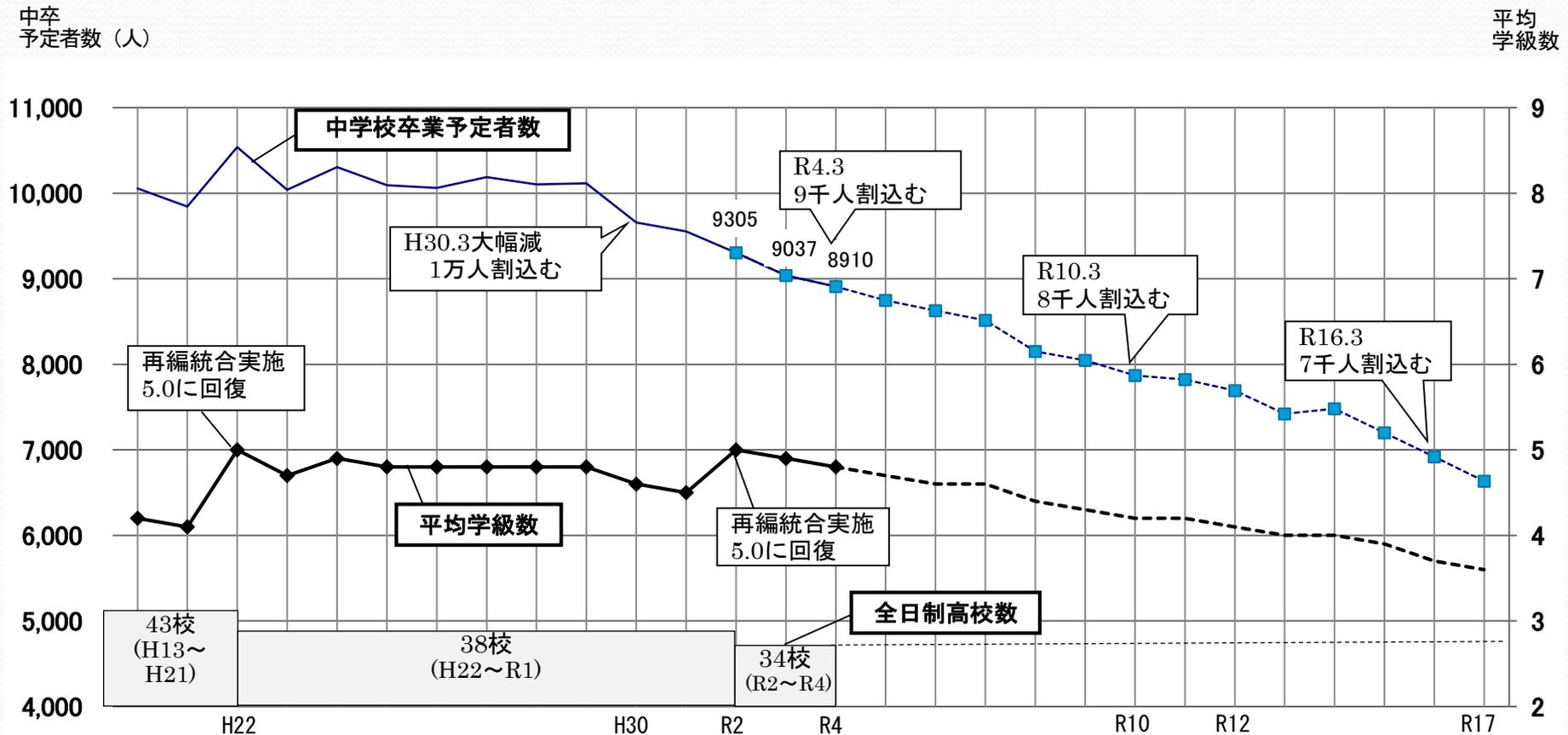


令和3年度全国高等学校 教育改革研究協議会

富山県教育委員会 県立学校課
主幹 沖田 直久

1 本県における中学校卒業予定者数と平均学級数の推移及び見込み



※全日制高校数は1学年を募集している学校数

※中学校卒業予定者数の算出について、H20年～R3年は学校基本調査(各年5月1日)、R4年～R12年は県教委調査(R3年5月1日)を基にした生徒数。R13年～R17年は県の人口移動調査(R2年10月1日)に基づく推定値

※R5年以降の平均学級数(学級数÷学校数)は、公私比率を71.6%と仮定し、学校数を34校で維持した場合の見込み

2 スクール・ポリシー及びスクール・ミッションの策定について

(1) スクール・ポリシーについて

i) 策定状況・公表

- ・4月に「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の公布について(通知)」を各校に送付
- ・6月に策定・公表について、校長会で説明、依頼
- ・現在、各高校において策定中
- ・新年度、新体制で正式に決定
- ・令和4年6月ごろ、県ホームページで一元化して公表予定。
合わせて、各高校でも公表予定

(2) スクール・ミッションについて

- ・策定予定の教育振興基本計画や今年度設置した「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」における議論の内容などを見ながら、スケジュールも含めてどのようにするか検討中

3 高等学校の特色化・魅力化に向けた取組について

(1)「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」の設置について

i) 設置目的

- ・中学校卒業予定者数の減少が見込まれる中、Society5.0時代の大きな変化に対応し、将来展望に立った魅力と活力ある県立高校のあり方について検討するために設置

ii) 委員

- ・学識経験者、教育関係者、保護者、経済界関係者から16名

iii) 検討事項

- ・将来展望に立った県立高校のあり方(第1回 8月31日開催)
 - ・職業系専門学科の現状と今後のあり方(第2回 11月2日開催)
 - ・普通系学科と総合学科の現状と今後のあり方
 - ・様々なタイプの学校・学科のあり方
 - ・令和2年度新高校開校に係る評価
 - ・定時制、通信制のあり方
- 等
- (第3回 協議予定)
- (次年度 協議予定)

(2) 議論の概要(主な意見)

i) 将来展望に立った県立高校のあり方(第1回)

- ・問題解決能力、問題発見能力が重要である。
- ・10年、20年先は、さらに人口減にもなっており、様々な人と一緒に学んだり、働いたりすることになっている。いかに自然に様々な人と出会って、仕事なり勉強なりができる能力を身につけていくかが必要である。
- ・理系文系に関わらず、IoTを活用した仕事も必須になってきており、IT人材の育成やそのようなことを見据え、自ら取り入れ、仲間や組織や世の中に広めていく、リーダーシップを持った人材の育成が求められている。
- ・地域の人達と子ども達が接する機会を増やしていくことが重要である。
- ・少子化が進む中、地区内の複数の高校がワイドに連携し合う取り組みもあってもよいのではないか。地区によっては、中高の連携を組み込み、さらに特色化を図ることもできるようにも思う。

ii) 職業系専門学科の現状と今後のあり方(第2回)

- ・技術革新・産業構造の変化、グローバル化等、社会の急激な変化を踏まえた職業系専門学科のあり方
- ・中学校卒業予定者数の減少に伴う職業系専門学科のあり方

(3) 今後の課題

- ・中学校卒業予定者数の減少に伴う県立高校のあり方について
- ・最先端技術や地域産業のニーズに対応した教育のあり方について
- ・普通科改革において、新しい学科を設置する場合の手順、コーディネーター配置のための支援などについて